

# 改正基準で表示・注記はこうなる！ 「収益認識の開示」の 実務ポイント

ASBJ  
解説

改正企業会計基準 29号

「収益認識に関する会計基準」等の解説

各科目の性質を理解し、適切に区分する体制を

実務解説

①

改正収益認識基準の  
表示に関する実務ポイント

IFRS 任意適用企業の注記例を参考に

実務解説

②

改正収益認識基準の  
注記に関する実務ポイント

強制適用される年度の開始まで残り1年となった3月31日、改正企業会計基準29号「収益認識に関する会計基準」等が公表された。これは、IFRS 15号「顧客との契約から生じる収益」の注記事項の定めを基本的にすべて取り入れたものだが、開示目的に照らした企業の判断が多く求められるだけに、実務上の影響も大きいと思われる。

本特集では、本改正の基本的な方針や開示目的等の特徴的な論点を中心に概要を紹介していただいたうえで、表示と注記の両面から実務的な留意事項を中心に解説していただいた。制度・実務双方の理解を深めていただければ幸いである。